

中部大会速報

12 三重県 暁 高校

高校生の青春を描く

一丸となって作った劇

26日、暁高校(三重)が「オトコーラス」を上演した。部活動を舞台にした脚本で、高校生の青春を上手く表現した。

上演後、キャスト、演出の方にインタビューした。

想いを伝えるために

伝えたかったことは、みんなで心を一つに合わせるために、合唱のシーンを通して伝えるために、合唱部に指導してもらい、一日の練習時間のうち、一時間を合唱の練習に、残りの5時間を劇の稽古に充て

た。

先生のオーラを出すために校内の先生を観察した。特に立ち方を意識し、先生ならではの立ち居振舞を表現した。

キャストの苦労

脚本の内容をわかりやすくするために、伊藤役(伊藤)は、筋トレを一所懸命にするなどの努力をして本番に挑んだ。その結果、3〜4割増え、満足できる芝居になった。また、創作であることを活かして、それぞれのキャラクターの性格を強調する演技を意識した。

本番前と本番後

練習では、楽しいシーンとシリアスなシーンの切り替えが難しく、大変だった。様々な出来事が起こり、練習がなかなか進まなかった期間もあった。

本番後、泣きたい気持ちでいっぱいだったが、大道具を片付ける必要があり、部員は



先輩に励まされる、新田部長。

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月26日

作品名

オトコーラス



先生の前で合唱を披露する場面。

泣けなかった。本番で100%は出せなかったが、部員全員で楽しく上演でき、満足だ。

工夫の数々

舞台装置の壁の汚れをだすために、鉛筆の芯を使うなど、身近な文房具を用いた。表彰楯は、同校のバレー部から借りて、使用した。また、

キャストの衣装では、序盤でワイシャツのボタンを開けていたが、後半にはシリアスな雰囲気を見せるために、ボタンをとめるなどの工夫をした。

大道具では、扉を作成する際に、ドアの開閉音を出さなために縁にクッションを置いた。その結果、上演中にドアの開閉音がなくなり、劇に集中できるようになった。

感想カードより

男子ならではの熱さや、爽やかさがあり、良かった。ギャグとシリアスなシーンのメリハリがしっかりしており、最後まで楽しめた。(匿名)

演劇と一緒に合唱をも楽しむことができた。創作であることを知り、驚いた。(Kさん)

(担当)北形、中川、藪下、安永、松川

創作 Original